

1 めざす子どもの姿

「自分から進んで机に向かい、与えられた宿題を確実にする習慣」を身につけていきましょう。

学習時間のめやす

40分

2 学習を支える基盤

(1) 「早寝、早起き、朝ご飯」の徹底

家庭学習の習慣をつけるには、まず『基本的な生活習慣』を身につけることが大切です。早寝・早起きをして、朝ごはんをしっかり食べ、生活のリズムを整えていきたいものです。

そして、身のまわりのことは自分ですること、できる手伝いは自分から進んですることなどについても、配慮してください。



(2) この頃の「育ち」の理解

自立心が芽生え、自分からやろうとすることが多くなってきますが、まだまだ手助けが必要な時期です。手を出しすぎず、的確なアドバイスや援助が大切な時でもあります。

好奇心が旺盛になり、活動内容や行動範囲も広がります。友だちと行動することを好むようになり、親のルールと子ども同士のルールとの狭間で、口答えや反抗が少しずつ見られるようになってきますが、家族からの温かいほめ言葉や励ましの言葉、わかりやすい説明があると気持ちが安定し、一層「やる気」が出てくるものです。

(3) ご家庭で大切にしたいこと

① 出された宿題をきちんとする取り組み

この段階では「自分一人でもやろう」という気持ちを伸ばすことが大切です。まず、学校から出された宿題は、進んで取り組み、きちんとできるようにしましょう。

また、一人ひとりの興味・関心や苦手なことなどに合わせ、自分からあれこれ工夫して学習するようにすると、確実な力が着いてきます。お子さんとよく話し合っ、具体的に取り組む内容と目標をきめ、進んでできたことを認めてあげましょう。

② けじめをもって切りかえて学習する習慣を

活動性に富み、遊びざかりとなります。遊びたいばかりに、急ぎすぎたり、雑になったりする傾向があり、ミスも多くなりがちです。よく話し合い、落ち着いて集中できる場と時間を決め、いつもの時と場で自ら取り組めるように工夫しましょう。

また、身のまわりの整理・整頓、学習時にテレビを消す、学習が終えたら次の日の準備をするなど、一連の流れをセットしてできるようにしましょう。そして、1・2年で身につけた内容を習慣として継続できるように、長い目で地道に手助けしていきましょう。

③ つまづきや苦手なことは、ともに寄り添いながら

学校生活に慣れ、親の手を離れるこの時期こそ、子どもの様子を丁寧に見ることが大切です。自主性をもたせるため“任せ放し”にしがちですが、必ず子どもが学習したことに目を通し、励ましの言葉をかけましょう。特に、つまづきや苦手なことについては寄り添い、ともに歩む覚悟で、温かく支えていくことが大切です。

小3・4年生は学習範囲が広がり、個人差が出てきます。他の子と比べるのではなく、その子が「努力した」「すすんでやった」点などを肯定的にとらえ、温かいことばがけをすることで、意欲を引き出していくことが重要です。



3 家庭学習のポイント

(1) まず、宿題はていねいに基本を大切にしてできるか、見てあげよう。

- ・音読は、言葉のまとまりをひとかたまりに、声を出して読む。
- ・漢字は、書き順、はね・はらい・とめに注意し、丁寧に書く。
- ・日記は、あったことを順序にそって書き、「、」「。」をつけて段落をわけて文を書く。
- ・計算ノートは、空白をつかって分けて書き、見やすくする。また、計算の過程は、はぶかずに、すべては書きます。
- ・文章題の意味を正しくとらえ、図で表す習慣がついている。直線や図形を描くときは、定規やコンパスを正しく使う。



(2) 余裕があったら、お子さんに合わせて自由学習をすすめるようにしましょう。

- ・国語の教科書、辞書や新聞にある文を、原稿用紙のきまり、段落を意識して写す。
- ・国語辞典や漢和辞典を使って、いろいろな言葉の意味や漢字を調べる。
- ・好きな本を中心に分野を広げ、読書にひたる。家族の中で内容について会話する。
- ・資料集や図鑑、事典、本などで、「おもしろいな」と思ったことを調べてみる。
- ・大切なこと、感動した詩・言葉は声を出して言ったり、書いたりして覚えてしまう。
- ・ニュースに関心をもち、学習に関係する新聞記事などを集めたり、記録したりする。

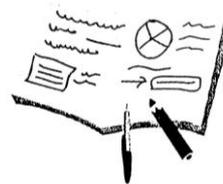
(3) 最終的に、3学年で身につけたい力・・・分岐点を乗り越える3年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・短い詩や百人一首をいくつか暗唱できる。
- ・簡単なことわざを知っている。
- ・主語と述語の意味がわかる。
- ・かけ算やわり算など正しい手順が計算できる。
- ・はかりをつかって重さが読める。



(4) 最終的に、4学年で身につけたい力・・・「9歳の壁」を破る4年生

- ・配当漢字のすべてが読め、8割以上の漢字が書ける。
- ・国語辞典や漢字辞典を手元に置いて使い方に慣れる。
- ・文と文のつながりを考えながら、指示語や接続詞を使う。
- ・わり算の筆算ができる。倍を使った文章題が正しくできる。コンパスを正しく使うことができる。
- ・ローマ字を適切に読み書きできる。
- ・地図を使って見知らぬ場所や地名を調べることができる。
- ・47都道府県の位置が分かり、名前を書くことができる。



生活への興味が広がり、自然や地域、社会に関心が深くなり、活動的になる年頃です。机に向かう学習だけでなく、学力の基礎となる“身体を通しての体験を積む”ことを大切にしましょう。その一つが“自然体験やお手伝い”です。できることはどんどん体験させてほめてください。生活の中で学びを生かし、お家の方と一緒に考え、工夫したり、楽しんだり、苦勞したりすることで、知的に刺激を受けながら、自信を持ち、学習への意欲を高めることでしょう。

人との温かいふれあいの中で、気持ちの安定と自分への自信、新たなことへの興味・関心、失敗を恐れずに挑戦する心を広げることが、この時期の子どもを伸ばし、高学年につなげる重要なポイントです。